

## 県内の景気動向

概況（2015年1月）

**景気は、拡大の動きが強まる**

**消費関連では、スーパー売上が前年を上回る**

**観光関連では、入域観光客が前年を上回る**

1月の県内景気をみると、消費関連では、百貨店は催事や販促効果などから増加し、スーパーは食料品の増加などから前年を上回った。耐久消費財では、新車販売は消費税増税前の駆け込み需要の反動から前年を下回り、電気製品卸売は太陽光発電システム需要の減少により前年を下回った。

建設関連では、公共工事は国や県発注工事の減少から前年を下回った。建築着工（12月）は非居住用の増加から前年を上回ったが、新設住宅着工戸数（12月）は、消費税増税前の駆け込み需要による反動から前年を下回った。建設受注は、民間工事の反動減により前年を下回った。

観光関連では、入域観光客数は国内客、外国客ともに増加し、引き続き前年を上回った。主要ホテルも稼働率、売上高、宿泊収入ともに引き続き前年を上回った。

総じてみると、観光関連が好調に推移し、消費関連、建設関連も概ね好調なことから、県内景気は拡大の動きが強まっている。

### 消費関連

百貨店売上高は、食料品は新規物産展の開催や改装効果、衣料品は福袋需要やクリアランスセール、販促効果などから増加し、9カ月連続で前年を上回った。スーパー売上高は、衣料品は前年に比べて気温が低く推移したことなどから増加し、食料品は正月の惣菜需要の増加などから、7カ月連続で前年を上回った。新車販売は、消費税増税前の駆け込み需要の反動などにより3カ月ぶりに前年を下回った。電気製品卸売販売額は、太陽光発電システムの需要の減少や消費税増税による駆け込み需要の反動などにより10カ月連続で前年を下回った。

先行きは、一部の耐久消費財は弱含むものの、全般としては好調に推移するものとみられる。

### 建設関連

公共工事請負金額は、国、県発注工事が大幅に減少したことから2カ月ぶりに前年を下回った。建築着工床面積（12月）は、非居住の増加から6カ月ぶりに前年を上回った。新設住宅着工戸数（12月）は、高水準となったものの、前年の消費税増税前の駆け込み需要の反動から6カ月連続で前年を下回った。県内主要建設会社の受注額は、民間工事が前年の反動により減少したことから3カ月ぶりに前年を下回った。建設資材関連では、セメント、生コンとともに公共工事向け出荷の増加などから引き続き前年を上回った。鋼材、木材は、住居関連向け出荷の減少などからともに前年を下回った。

先行きは、新設住宅着工が前年の消費税増税前の駆け込み需要の反動減がみられるものの、公共工事の増加などから、概ね好調な動きになるものとみられる。

### 観光関連

入域観光客数は、28カ月連続で前年を上回った。国内客、外国客ともに増加し、国内客は15カ月連続で、外国客は18カ月連続で前年を上回った。方面別では韓国、関西、福岡などからの入域が観光客数増加に寄与した。

県内主要ホテルは、宿泊客室単価は前年を下回ったものの、稼働率、売上高、宿泊収入ともに前年を上回った。主要観光施設入場者数は11カ月連続で前年を上回った。ゴルフ場は、入場者数が3カ月連続、売上高は4カ月連続でそれぞれ増加した。

先行きは、外国客を中心とした旺盛な旅行需要を背景に好調に推移するものとみられる。

## 雇用関連

新規求人数（12月）は、前年同月比 21.7%増と 2 カ月ぶりに増加し、有効求人倍率（季調値）は、0.80 倍と 7 カ月連続で復帰後最高値を更新し、初の 0.8 倍台となった。産業別にみると、医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業、卸売業・小売業などで増加し、サービス業、農林漁業などで減少した。完全失業率（季調値）は 4.6%と前月より 1.0%ポイント改善した。

## その他

消費者物価指数（総合、12月）は、食料、教養娯楽などの上昇により前年同月比 2.4%増と 19 カ月連続で前年を上回った。

企業倒産は、件数が 7 件で前年同数となった。負債総額は、3 億 7,500 万円となり、同 74.9%の減少だった。

# りゅうぎん調査（2015年1月）

増減率(%)

	前年同月比	前年同期比 (2014.11-2015.1)
<b>1. 消費関連</b>		
(1) 百貨店(金額)	16.3	17.8
(2) スーパー(既存店)(金額)	1.8	2.1
(3) スーパー(全店)(金額)	2.7	2.9
(4) 新車販売(台数)	▲ 13.6	4.2
(5) 電気製品卸売(金額)	▲ 29.1	▲ 25.1
<b>2. 建設関連</b>		
(1) 公共工事請負金額(金額)	▲ 28.4	▲ 3.3
(2) 建築着工床面積(m <sup>2</sup> )	(12月) 22.6	(10-12月) ▲ 15.0
(3) 新設住宅着工戸数(戸)	(12月) ▲ 4.8	(10-12月) ▲ 26.7
(4) 建設受注額(金額)	▲ 57.8	▲ 15.9
(5) セメント(トン数)	16.9	17.0
(6) 生コン(m <sup>3</sup> )	5.9	3.4
(7) 鋼材(金額)	▲ 4.9	▲ 3.4
(8) 木材(金額)	P ▲ 7.0	P 2.8
<b>3. 観光関連</b>		
(1) 入域観光客数(人数)	7.1	7.8
うち外国客数(人数)	41.2	60.4
(2) 県内主要ホテル稼働率	(前年同月差) 5.6	(前年同期差) 3.4
	(実数) 75.1	(実数) 71.7
(3) " 売上高(金額)	4.9	5.8
(4) 観光施設入場者数(人数)	6.8	9.0
(5) ゴルフ場入場者数(人数)	5.3	3.5
(6) " 売上高(金額)	7.5	6.1
<b>4. その他</b>		
(1) 県内新規求人数(人数)	(12月) 21.7	(10-12月) 12.8
(2) 有効求人倍率(季調値)	(実数、12月) 0.80	(実数、10-12月) 0.78
(3) 消費者物価指数(総合)	(12月) 2.4	(10-12月) 2.6
(4) 企業倒産件数(件数)	(前年同月差) 0	(前年同期差) 3.0
(5) 広告収入(県内マスコミ)(金額)	(12月) 5.8	(10-12月) 3.3

(注1) 公共工事請負金額は西日本建設業保証株式会社沖縄支店調べ。建築着工床面積、新設住宅着工戸数は国土交通省調べ。県内新規求人数、有効求人倍率は沖縄労働局調べ。入域観光客数、消費者物価指数は沖縄県調べ。企業倒産件数は東京商工リサーチ沖縄支店調べ。Pは速報値。

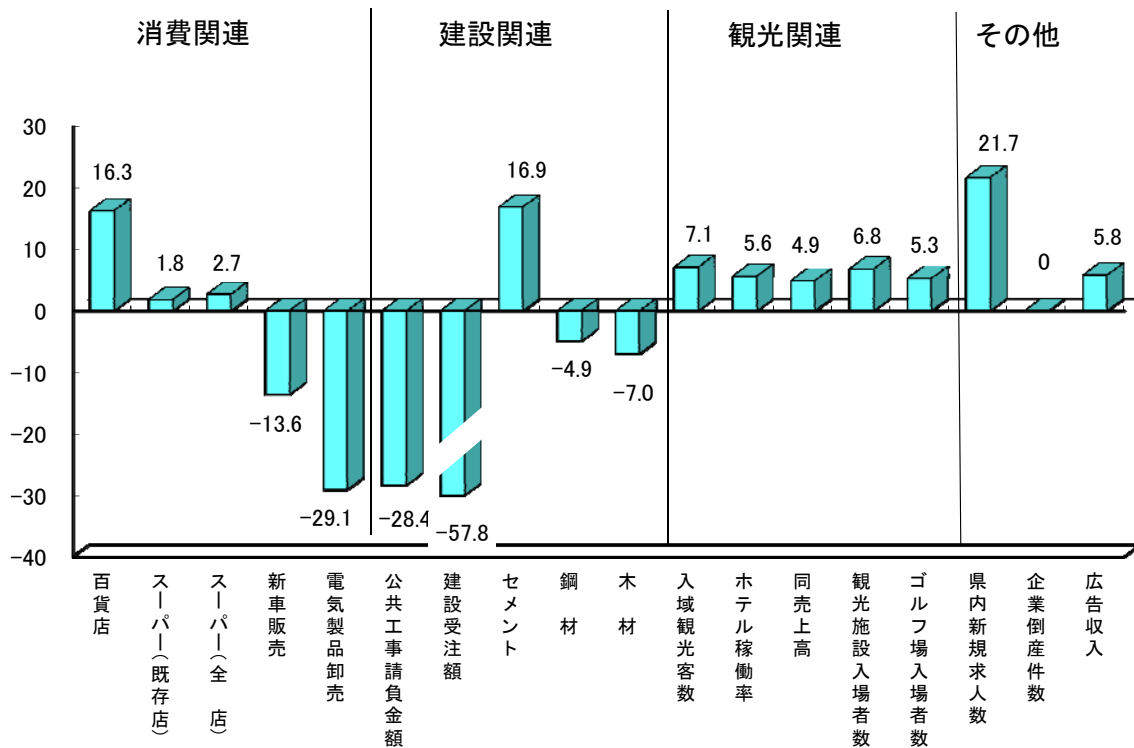
(注2) 百貨店は、2014年9月より調査先が一部変更となった。

(注3) 2012年5月より外国客の入域観光客数を掲載した。

(注4) 主要ホテルは、2014年10月より調査先を25ホテルから27ホテルとした。

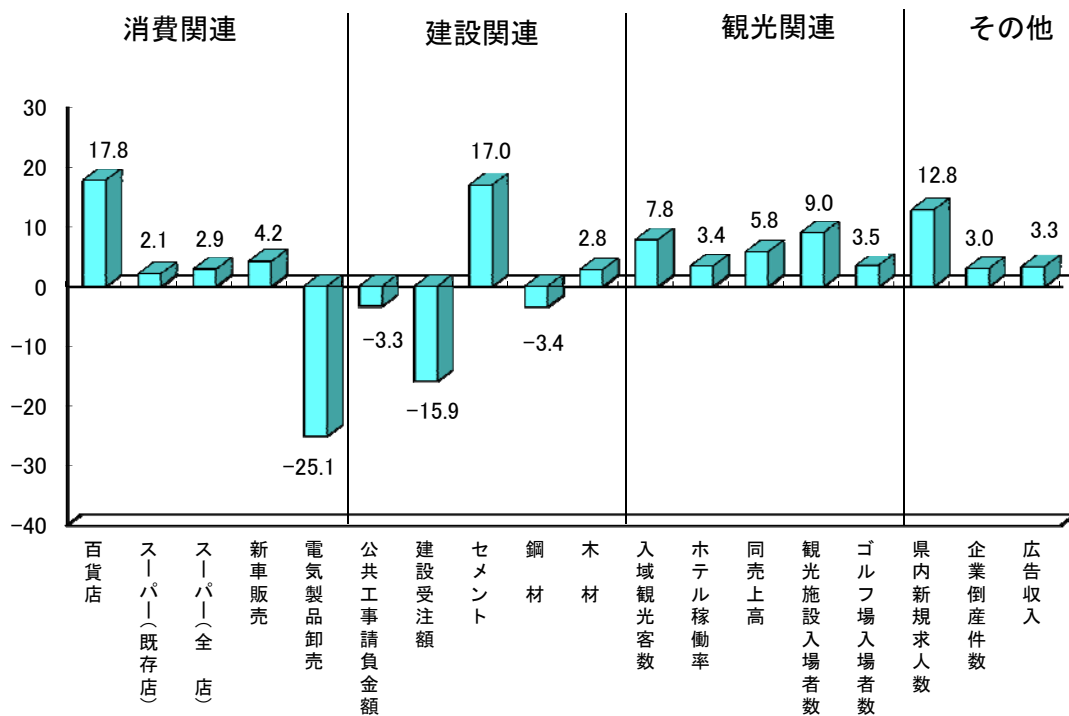
(注5) 企業倒産の前年同月差は、月平均の前年同月差。

項目別グラフ(単月、2015年1月)



(注) 県内新規求人数、広告収入は14年12月分。数値は前年比(%)。木材は速報値。  
ホテル稼働率(%ポイント)、企業倒産件数(件)は前年差。

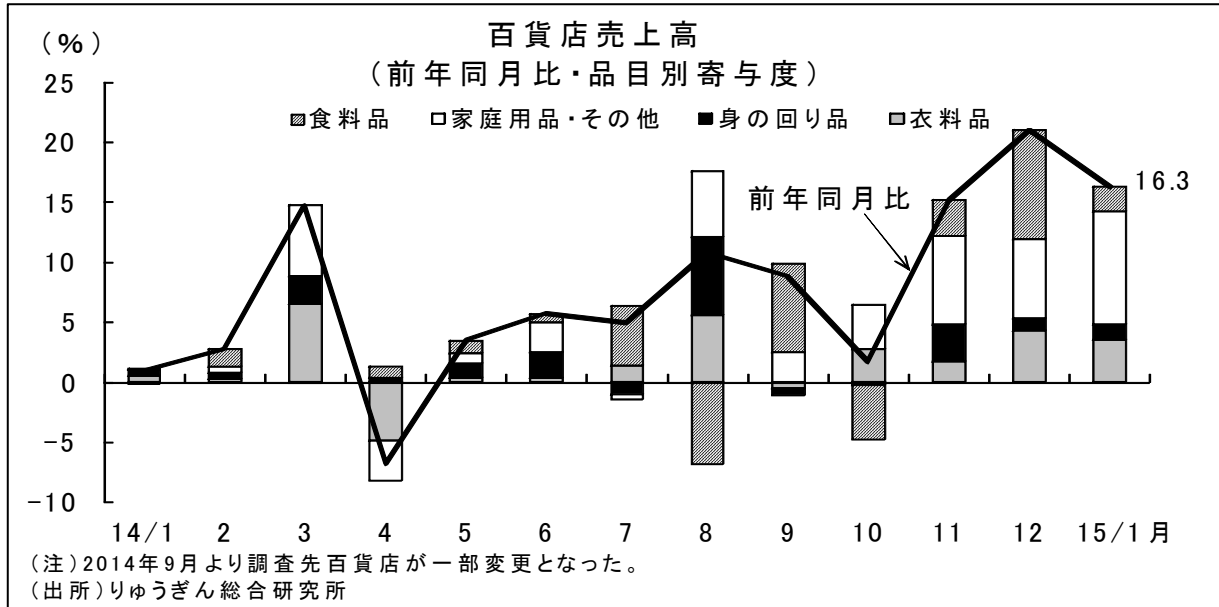
項目別グラフ(3カ月、2014年11月~2015年1月)



(注) 県内新規求人数、広告収入は14年10月~12月分。数値は前年比(%)。木材は速報値。  
ホテル稼働率(%ポイント)は前年差。企業倒産件数(件)は月平均の前年差。

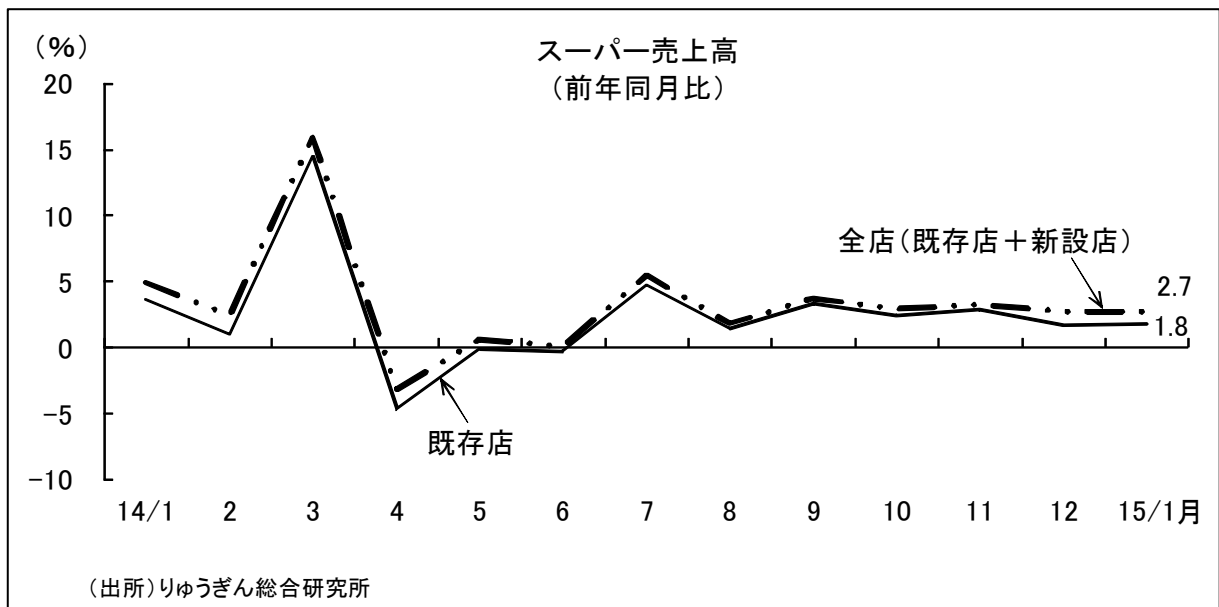
# 1. 消費関連

## (1) 百貨店売上高：9カ月連続で増加



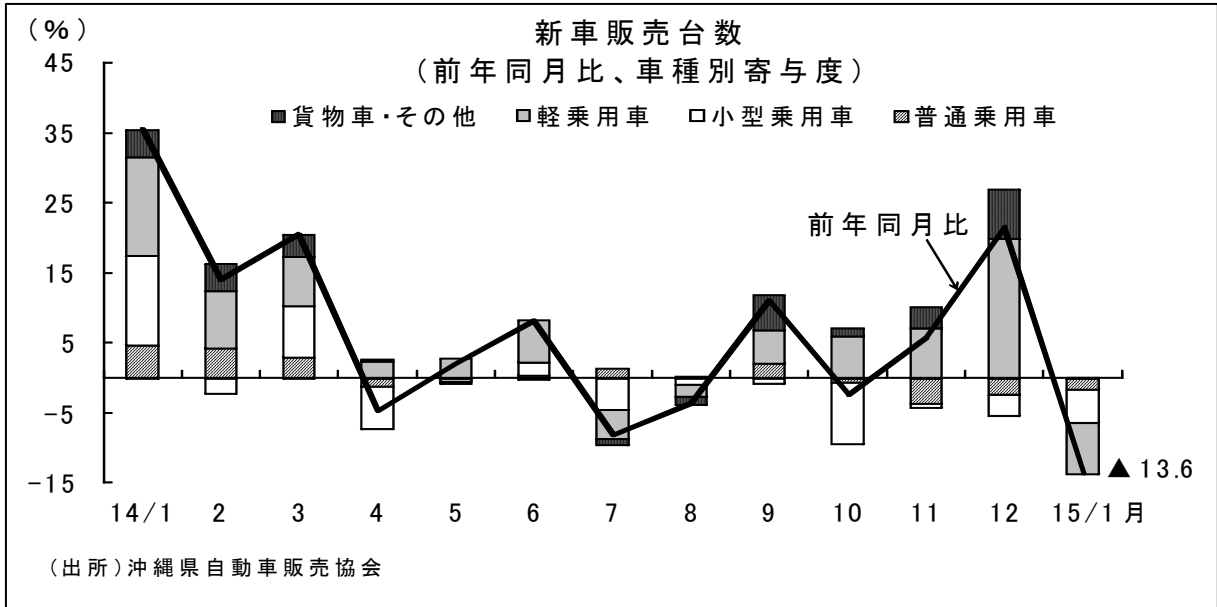
- 百貨店売上高は、前年同月比 16.3%増と 9 カ月連続で前年を上回った。食料品は新規物産展の開催や改装効果による客数の増加などから好調に推移し、衣料品は福袋需要やクリアランスセール、販促効果などから増加した。身の回り品や家庭用品・その他も化粧品の売り上げなどが伸長したことから増加した。
- 品目別にみると、食料品 (同 10.6%増)、衣料品 (同 8.2%増)、家庭用品・その他 (同 36.3%増)、身の回り品 (同 11.1%増) となり、すべての項目で増加した。

## (2) スーパー売上高：全店ベースは7カ月連続で増加



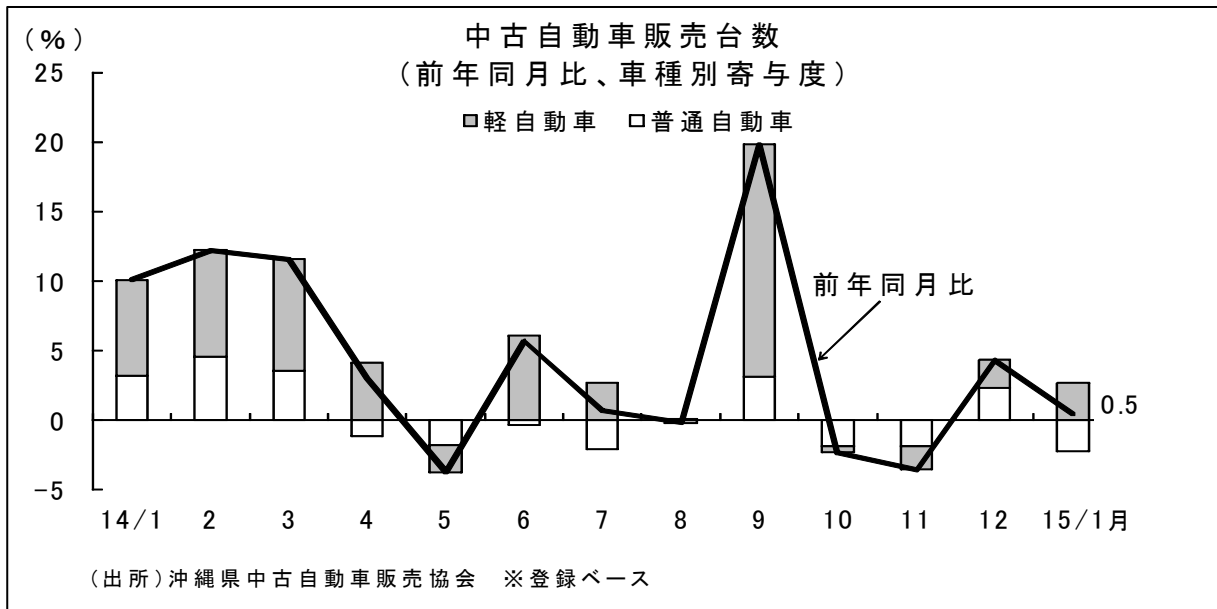
- スーパー売上高は、既存店ベースでは前年同月比 1.8%増と 7 カ月連続で前年を上回った。
- 衣料品は、前年に比べて気温が低く推移したことや販促効果などから同 0.5%増、食料品は正月の惣菜需要の増加などから同 1.8%増となった。家電を含む住居関連は同 2.3%増だった。
- 全店ベースでは、2.7%増と 7 カ月連続で前年を上回った。

(3) 新車販売台数：3カ月ぶりに減少



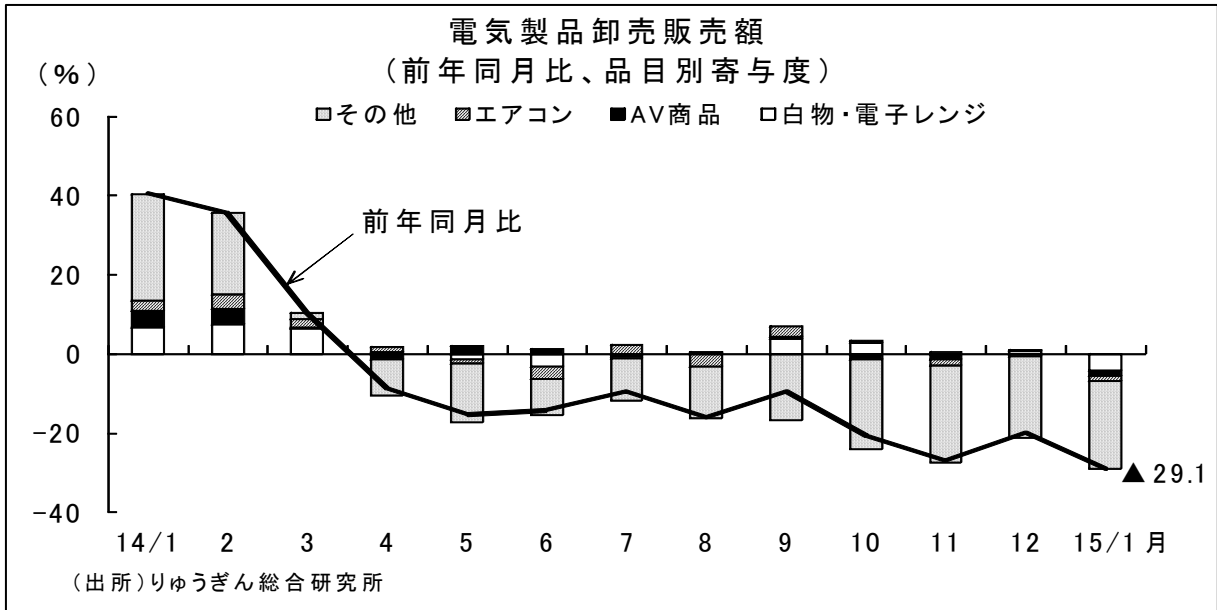
- ・ 新車販売台数は3,394台となり、前年同月比13.6%減と3カ月ぶりに前年を下回った。消費税増税前の駆け込み需要の反動などから普通自動車、軽自動車ともに前年を下回った。
- ・ 普通自動車(登録車)は1,282台(同16.0%減)で、うち普通乗用車は323台(同17.0%減)、小型乗用車は790台(同19.1%減)であった。軽自動車(届出車)は2,112台(同12.1%減)で、うち軽乗用車は1,784台(同13.9%減)であった。

(4) 中古自動車販売台数(登録ベース)：2カ月連続で増加



- ・ 中古自動車販売台数(普通自動車及び軽自動車の合計、登録ベース)は1万5,218台で前年同月比0.5%増と2カ月連続で前年を上回った。
- ・ 内訳では、普通自動車は5,398台(同5.8%減)となったものの、軽自動車は9,820台(同4.4%増)となった。

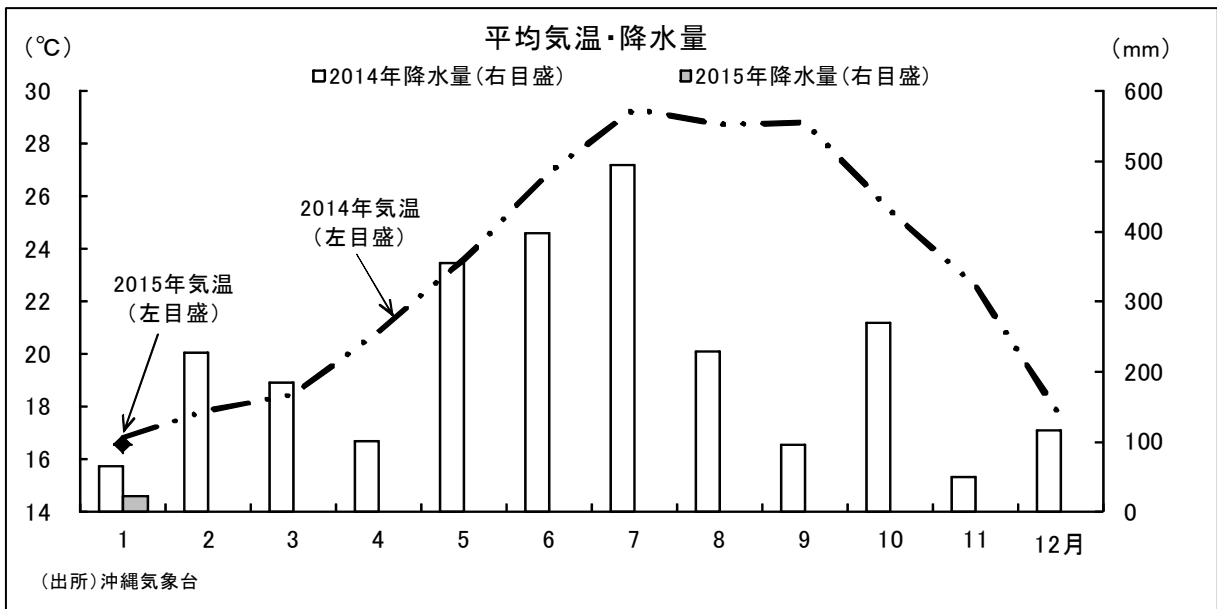
(5) 電気製品卸売販売額：10カ月連続で減少



- ・ 電気製品卸売販売額は、太陽光発電システムの需要の減少や前年の消費税増税による駆け込み需要の反動などにより前年同月比 29.1%減と 10 カ月連続で前年を下回った。
- ・ 品目別にみると、AV商品ではテレビが同 12.1%減、DVDレコーダーが同 32.7%減、白物では洗濯機が同 20.3%減、冷蔵庫が同 33.6%減、エアコンが同 15.7%減、太陽光発電システムを含むその他は同 32.9%減となった。

(参考)

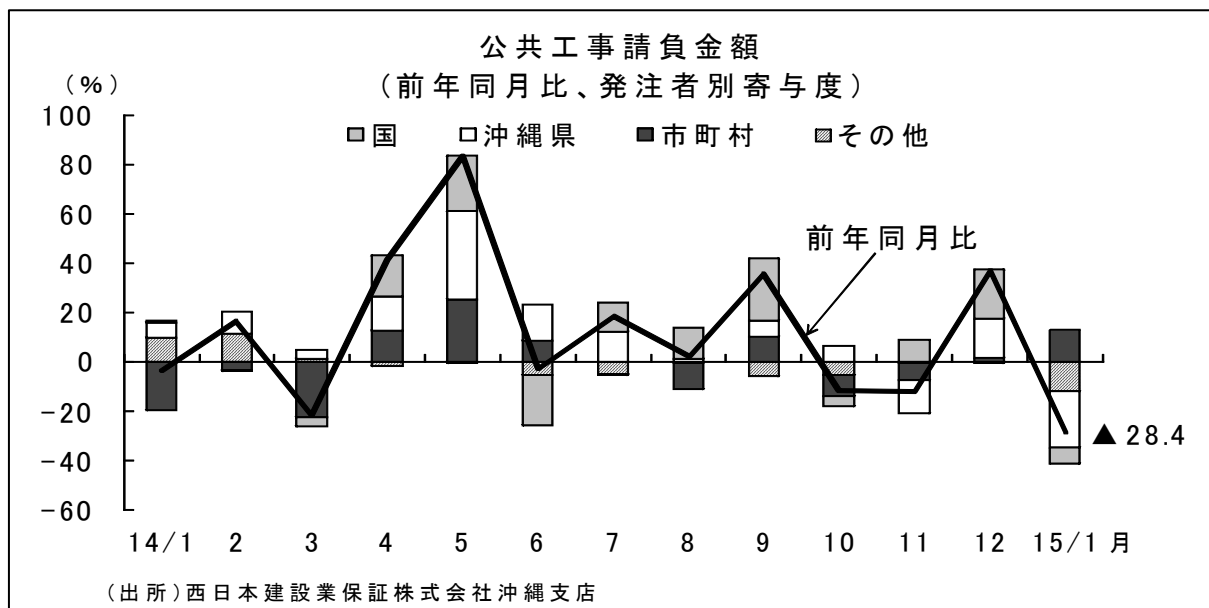
◇ 気象:平均気温・降水量 (那覇)



- ・ 平均気温は 16.6℃となり、平年 (17.0℃)、前年同月 (16.8℃) より低かった。降水量は 22.0 mmと前年同月 (66.0mm) より少なかった。
- ・ 沖縄地方の天気は、寒気や前線の影響により曇り日などが多かった。気温は低く推移し、日照時間は少なかった。

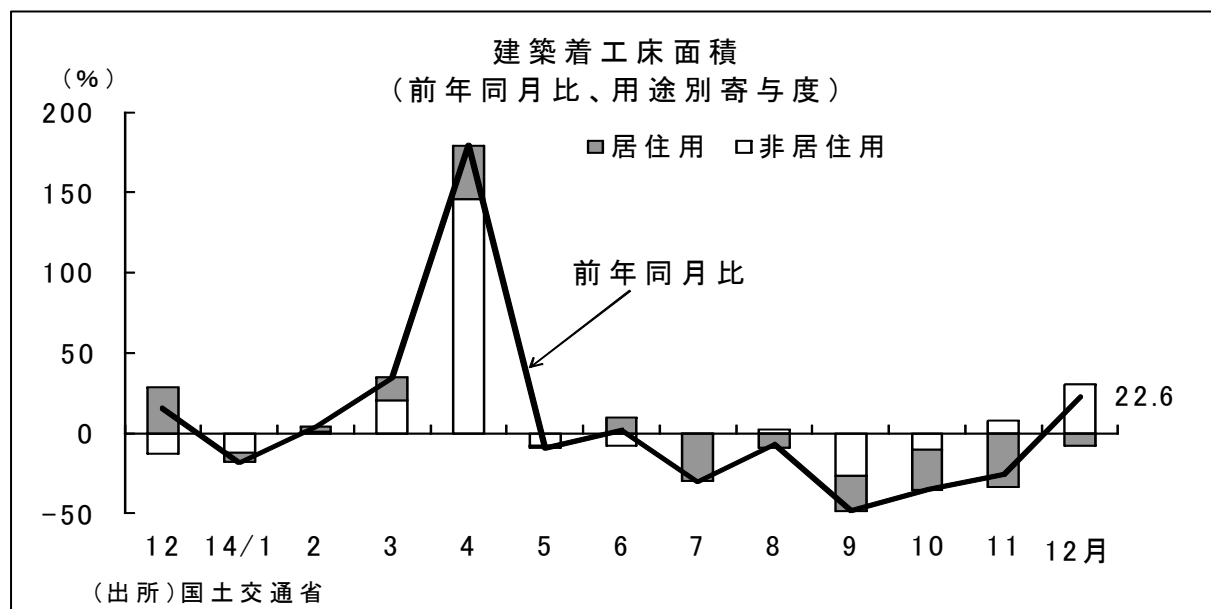
## 2. 建設関連

### (1) 公共工事請負金額：2カ月ぶりに減少



- 公共工事請負金額は、143億5,900万円の前年同月比28.4%減となり、国、県発注工事が大幅に減少したことから2カ月ぶりに前年を下回った。
- 発注者別では、市町村(同61.9%増)が増加し、国(同28.3%減)、県(同56.0%減)、独立行政法人等・その他(同82.4%減)が減少した。
- 大型工事としては、宮古島局舎新設建築工事、沖縄市立中の町小学校改築工事、大宜味村立小学校・中学校屋内運動場建築工事などがあつた。

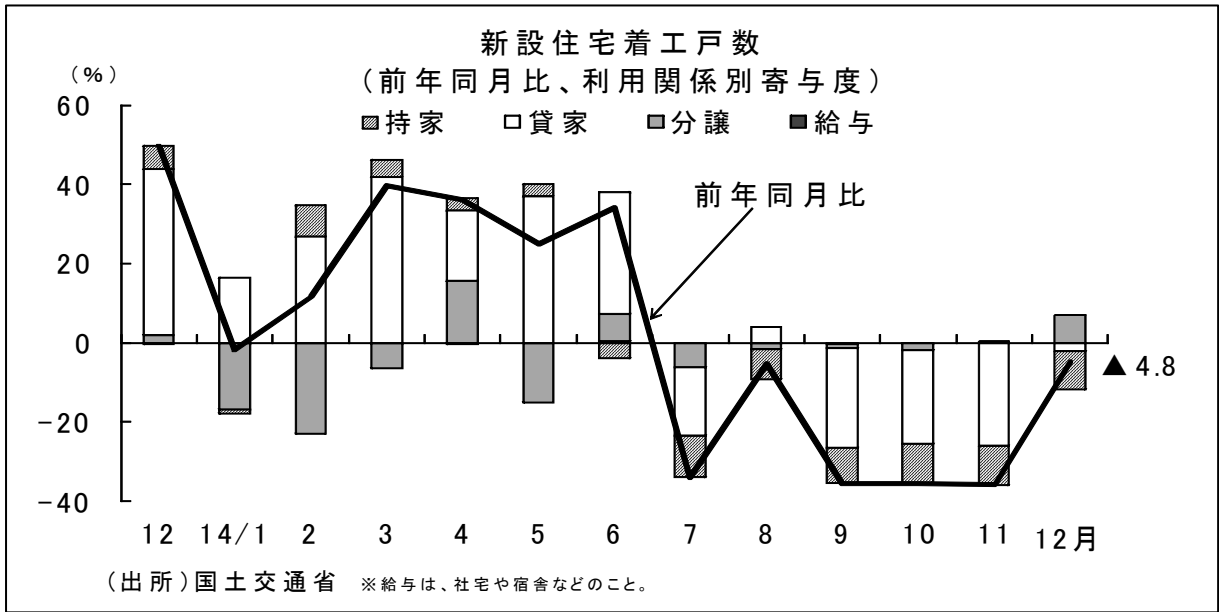
### (2) 建築着工床面積：6カ月ぶりに増加



- 建築着工床面積(12月)は19万5,170㎡となり、前年同月比22.6%増と6カ月ぶりに前年を上回った。用途別では、居住用は同10.6%減、非居住用は同107.1%増となった。
- 建築着工床面積を用途別(大分類)にみると、居住用では、居住専用、居住産業併用が減少した。非居住用では、医療、福祉用、飲食店・宿泊業用などが増加し、金融・保険業用などが減少した。

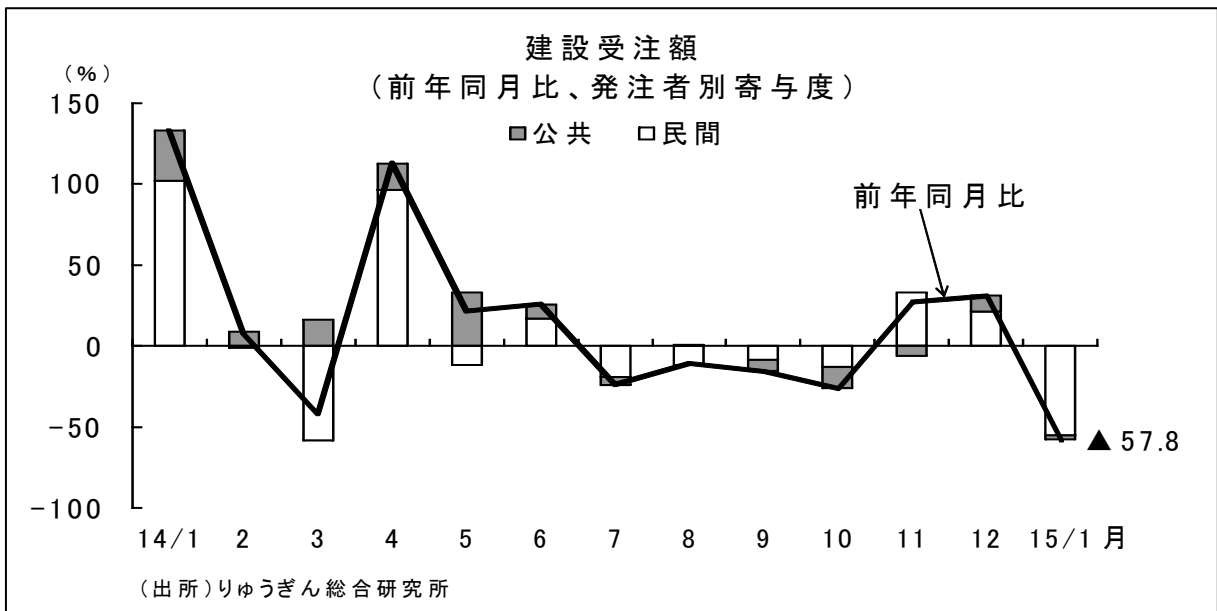


(3) 新設住宅着工戸数：6カ月連続で減少



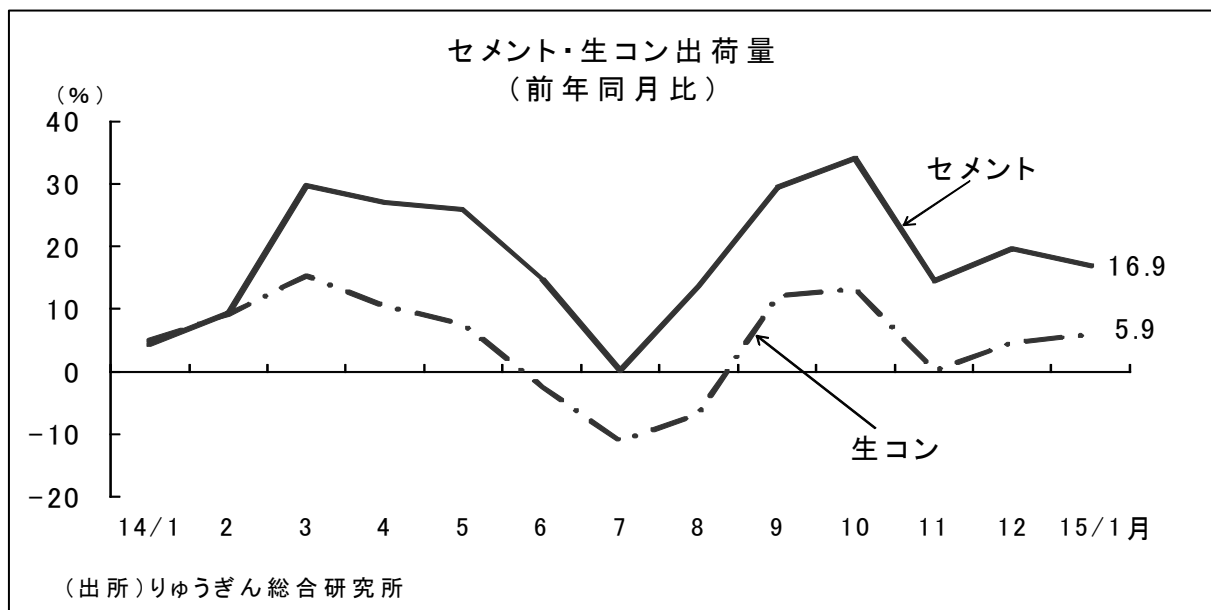
- 新設住宅着工戸数（12月）は1,368戸となり、前年の消費税増税前の駆け込み需要の反動により、前年同月比4.8%減と6カ月連続で前年を下回った。前年比減少したものの、着工数は貸家の建築需要などから高水準であった。
- 利用関係別では、分譲が同70.9%増（241戸）と増加し、貸家が同3.3%減（933戸）、持家が同41.4%減（194戸）と減少した。給与は着工がなかった。

(4) 建設受注額：3カ月ぶりに減少



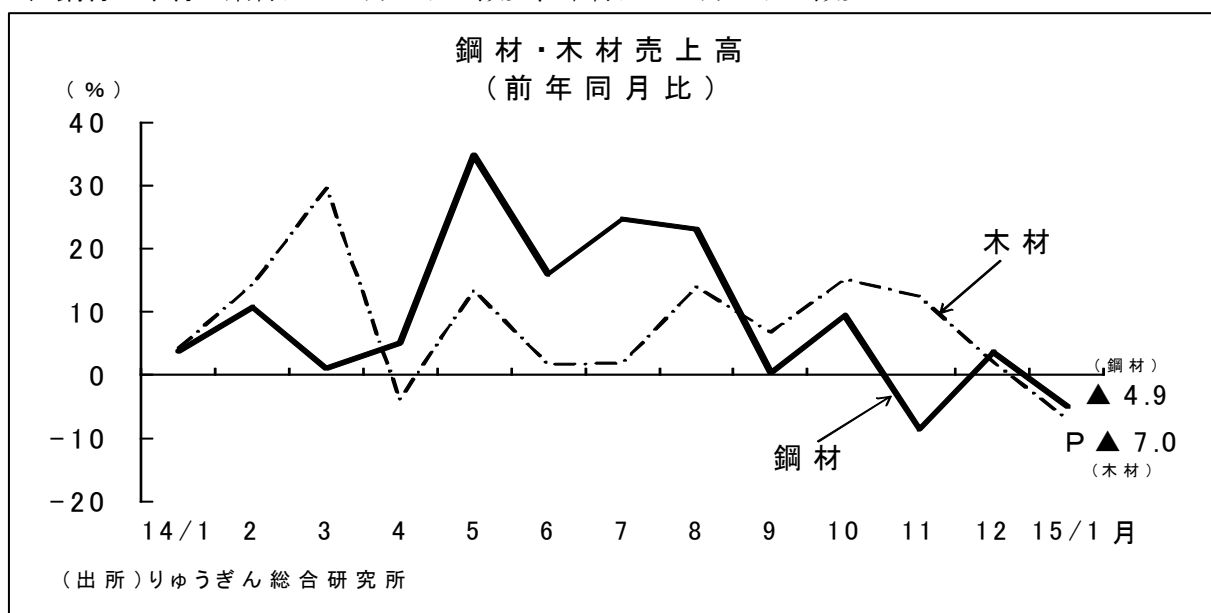
- 建設受注額（調査先建設会社：20社）は、民間工事が前年の反動から大幅に減少し、前年同月比57.8%減と3カ月ぶりに前年を下回った。
- 発注者別では、公共工事（同8.6%減）は2カ月ぶりに減少し、民間工事（同76.1%減）は3カ月ぶりに減少した。

(5) セメント・生コン：セメントは15カ月連続で増加、生コンは5カ月連続で増加



- ・ セメント出荷量は7万8,559トンとなり、公共工事向け出荷の増加などから前年同月比16.9%増と15カ月連続で前年を上回った。
- ・ 生コン出荷量は15万642m<sup>3</sup>で同5.9%増となり、公共工事向け出荷の増加などから5カ月連続で前年を上回った。
- ・ 生コン出荷量を出荷先別にみると、公共工事では、空港関連や港湾関連工事向け出荷などが増加し、公営住宅関連工事向け出荷などが減少した。民間工事では、商業施設関連工事向けなどが増加し、戸建て住宅関連や貸家関連工事向け出荷などが減少した。

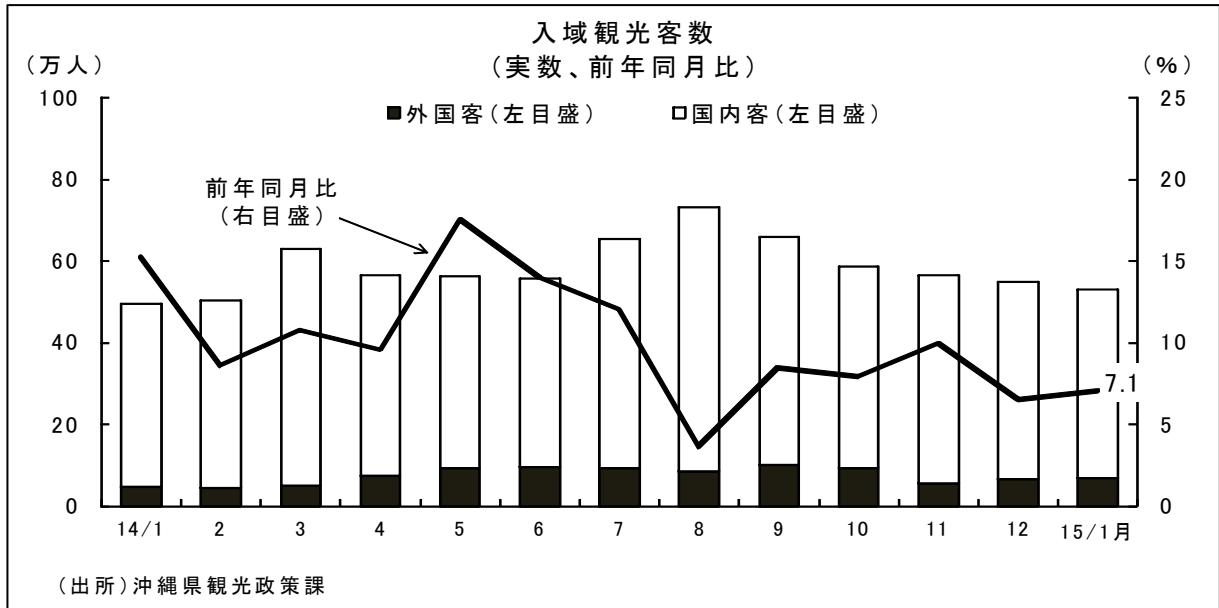
(6) 鋼材・木材：鋼材は2カ月ぶりに減少、木材は9カ月ぶりに減少



- ・ 鋼材売上高は、住居関連向け出荷の減少などから、前年同月比4.9%減と2カ月ぶりに前年を下回った。
- ・ 木材売上高(速報値)は、住居関連向け出荷の減少などから、同7.0%減と9カ月ぶりに前年を下回った。

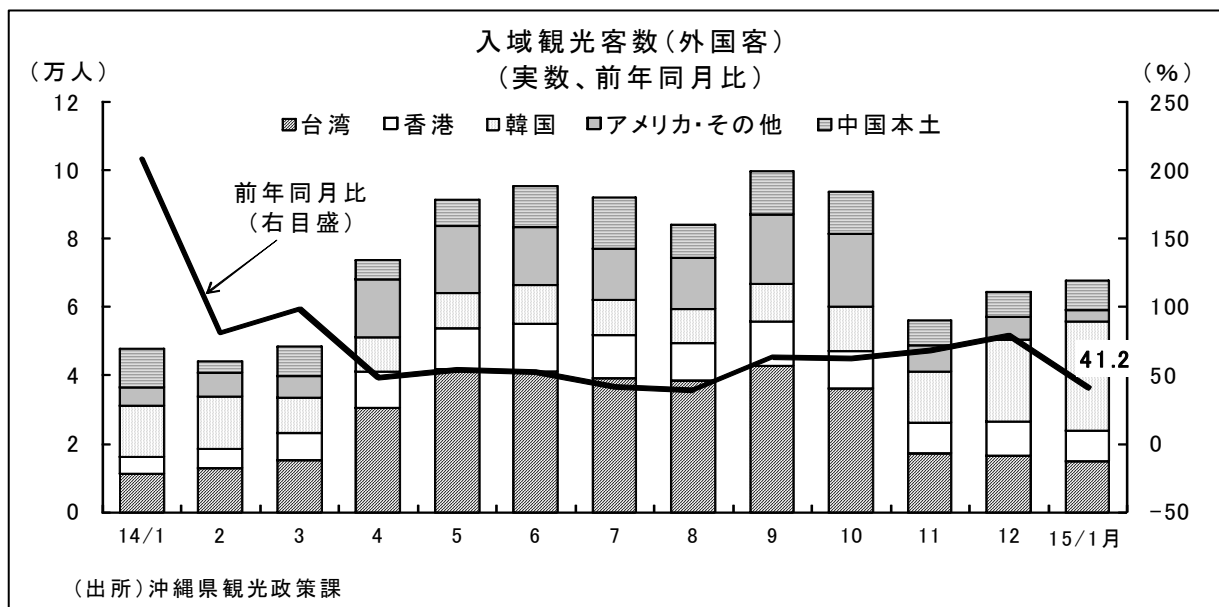
### 3. 観光関連

#### (1) 入域観光客数：28 カ月連続で増加



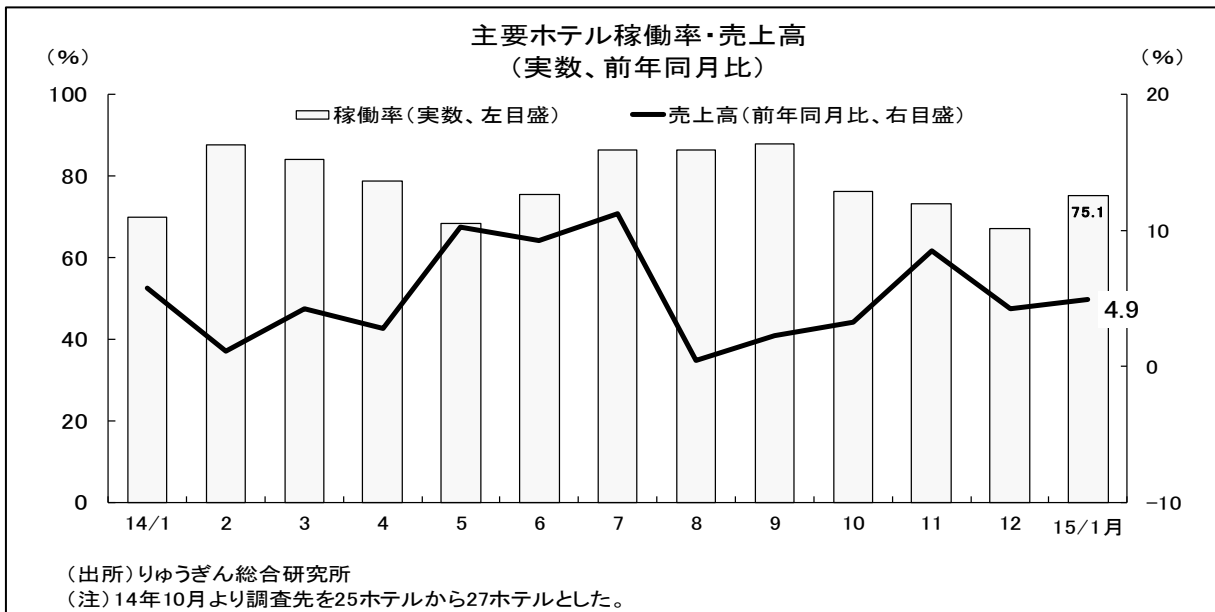
- 1月の入域観光客数は、前年同月比7.1%増の53万100人と、28カ月連続で前年を上回った。国内客、外国客ともに増加し、うち国内客は、同3.4%増の46万2,200人となり15カ月連続で前年を上回った。
- 路線別でみると、空路は国内客、外国客ともに増加し、52万6,600人(同9.3%増)と28カ月連続で前年を上回った。海路は国内客が前年同数となったものの、外国客が減少し、3,500人(同73.9%減)と2カ月連続で前年を下回った。

#### (2) 入域観光客数(外国客)：18 カ月連続で増加



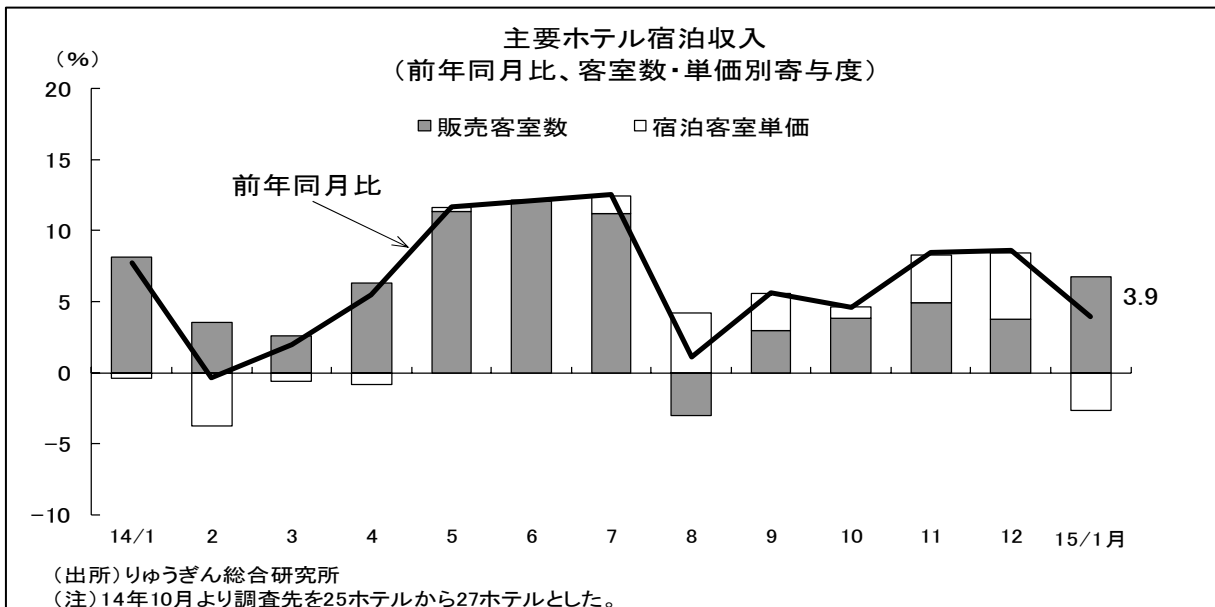
- 1月の入域観光客数(外国客)は、新規航空路線の拡充などから前年同月比41.2%増の6万7,900人となり、18カ月連続で前年を上回った。
- 国籍別では、韓国3万1,800人(同112.0%増)、台湾1万5,100人(同34.8%増)、香港9,000人(同73.1%増)、中国本土8,500人(同26.1%減)、アメリカ・その他3,500人(同32.7%減)であった。

(3) 主要ホテル稼働率・売上高：稼働率は5カ月連続で上昇、売上高は14カ月連続で増加



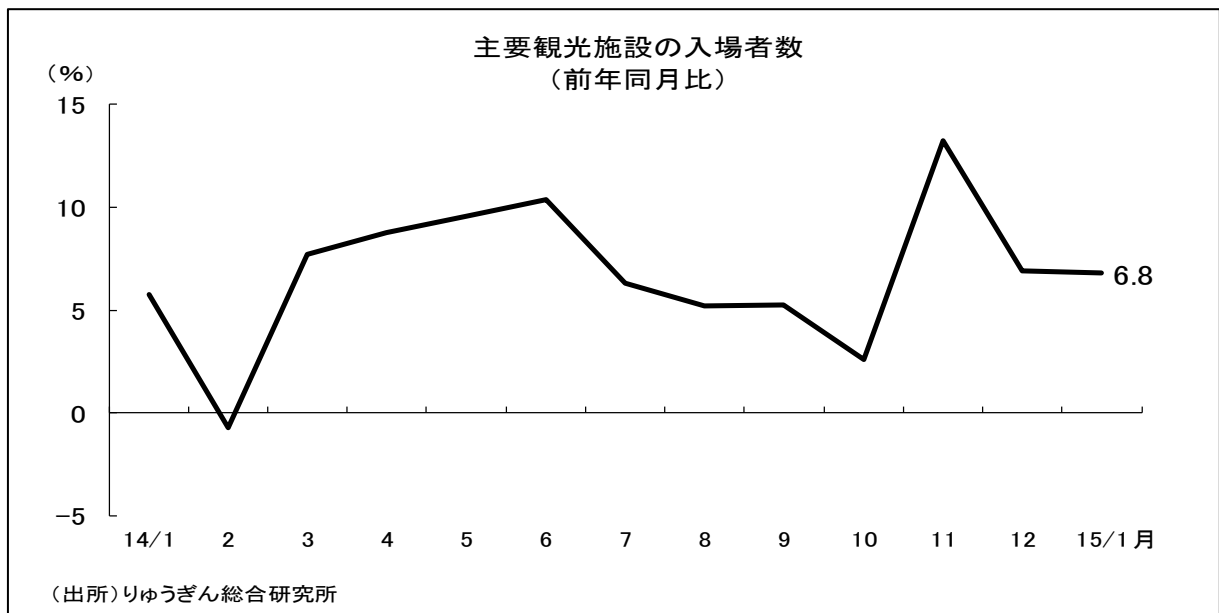
- ・ 主要ホテルは、客室稼働率は75.1%となり、前年同月比5.6%ポイント上昇し、5カ月連続で前年を上回った。売上高は同4.9%増と14カ月連続で前年を上回った。
- ・ 那覇市内ホテルは、客室稼働率は76.7%と同4.9%ポイント上昇し25カ月連続で前年を上回り、売上高は同8.8%増と14カ月連続で前年を上回った。リゾート型ホテルは、客室稼働率は74.1%と同5.9%ポイント上昇し5カ月連続で前年を上回り、売上高は同3.0%増と5カ月連続で前年を上回った。

(4) 主要ホテル宿泊収入：11カ月連続で増加



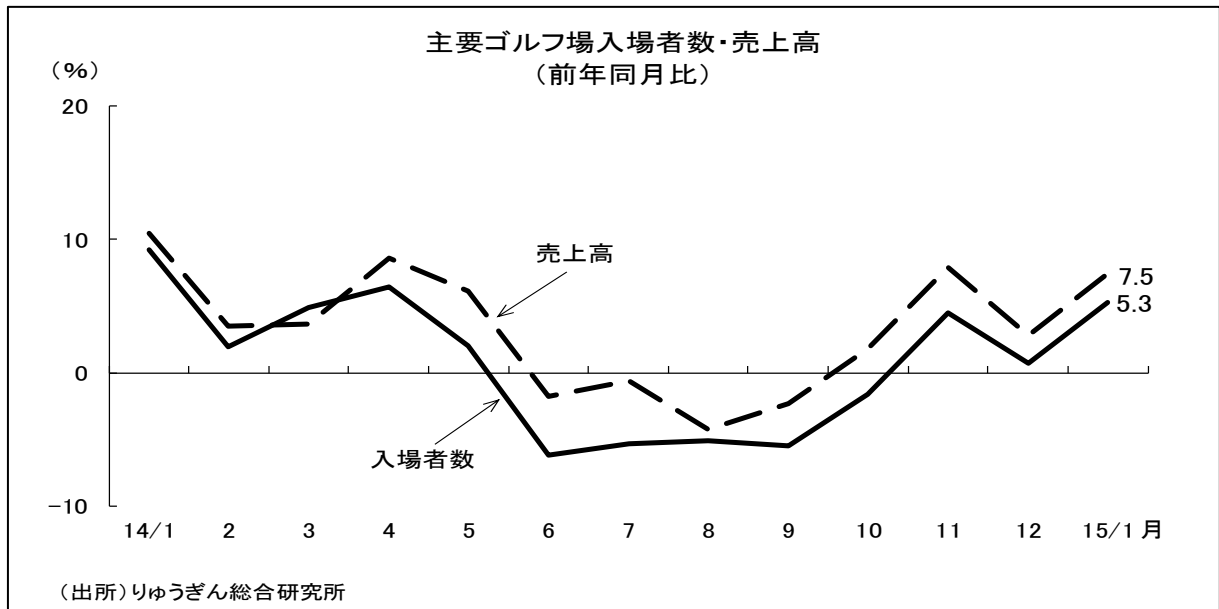
- ・ 主要ホテル売上高のうち宿泊収入は、宿泊客室単価(価格要因)が減少したものの、販売客室数(数量要因)が増加したことから、前年同月比3.9%増と11カ月連続で前年を上回った。
- ・ 那覇市内ホテルは、販売客室数、宿泊客室単価ともに増加し、同10.4%増と11カ月連続で前年を上回った。リゾート型ホテルは、宿泊客室単価は減少し、販売客室数が増加したことから、同1.7%増と5カ月連続で前年を上回った。

(5) 主要観光施設の入場者数：11 カ月連続で増加



- 主要観光施設の入場者数は、前年同月比 6.8% 増となり、11 カ月連続で前年を上回った。

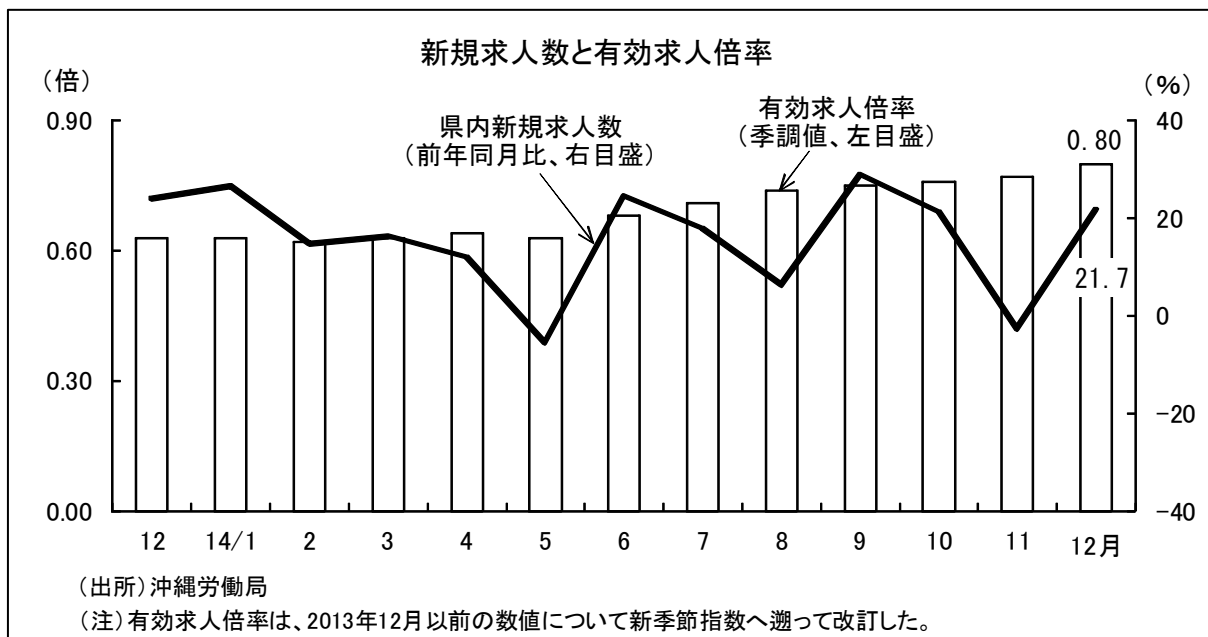
(6) 主要ゴルフ場入場者数・売上高：入場者数は3 カ月連続で増加、売上高は4 カ月連続で増加



- 主要ゴルフ場の入場者数は、前年同月比 5.3% 増と 3 カ月連続で前年を上回った。県内客は微減し、県外客は増加した。
- 売上高は同 7.5% 増と 4 カ月連続で前年を上回った。

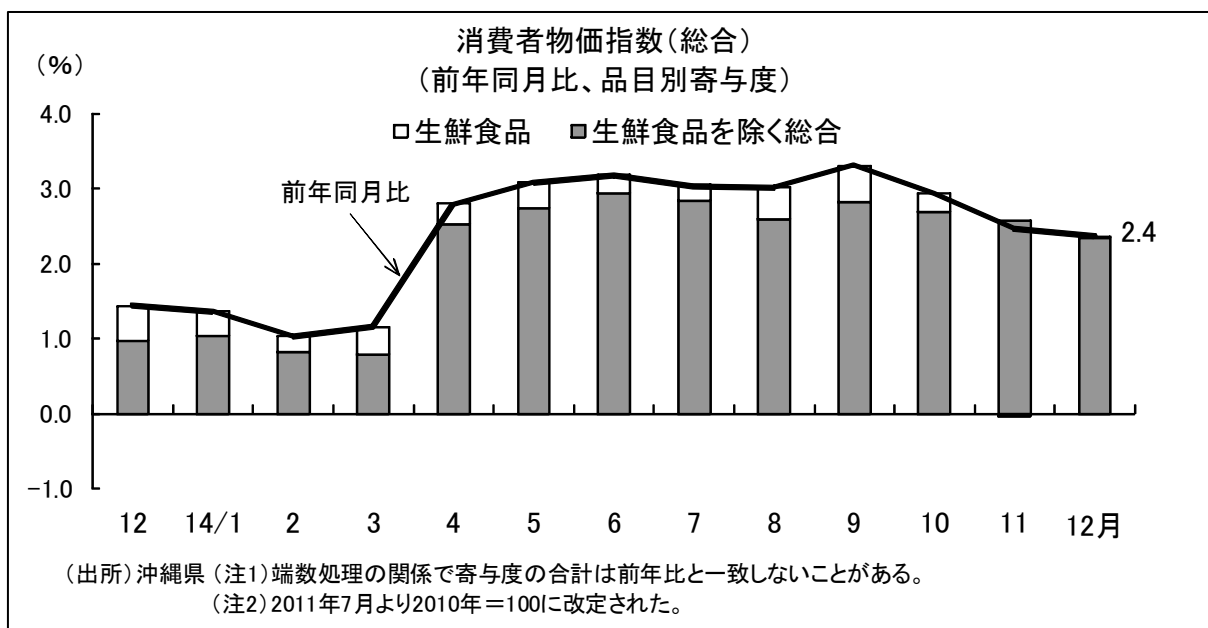
## 4. その他

(1) 雇用関連：新規求人数は増加、有効求人倍率（季調値）は上昇



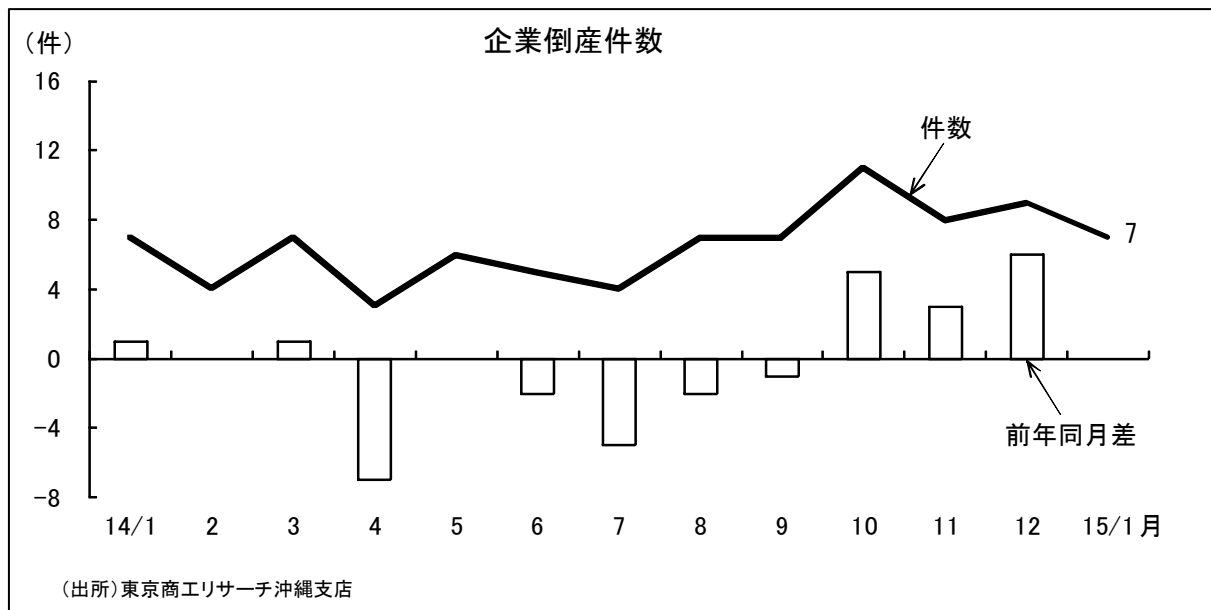
- 新規求人数（12月）は、前年同月比21.7%増となり2カ月ぶりに前年を上回った。産業別にみると、医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業、卸売業・小売業などで増加し、サービス業、農林漁業などで減少した。有効求人倍率（季調値）は、0.80倍と7カ月連続で復帰後最高値を更新し、初の0.8倍台となった。
- 労働力人口（12月）は、68万5,000人で同0.7%減となり、就業者数は、65万4,000人で同0.8%減となった。完全失業者数は3万1,000人で前年同数となり、完全失業率（季調値）は4.6%と前月より1.0%ポイント改善した。

(2) 消費者物価指数（総合）：19カ月連続で上昇



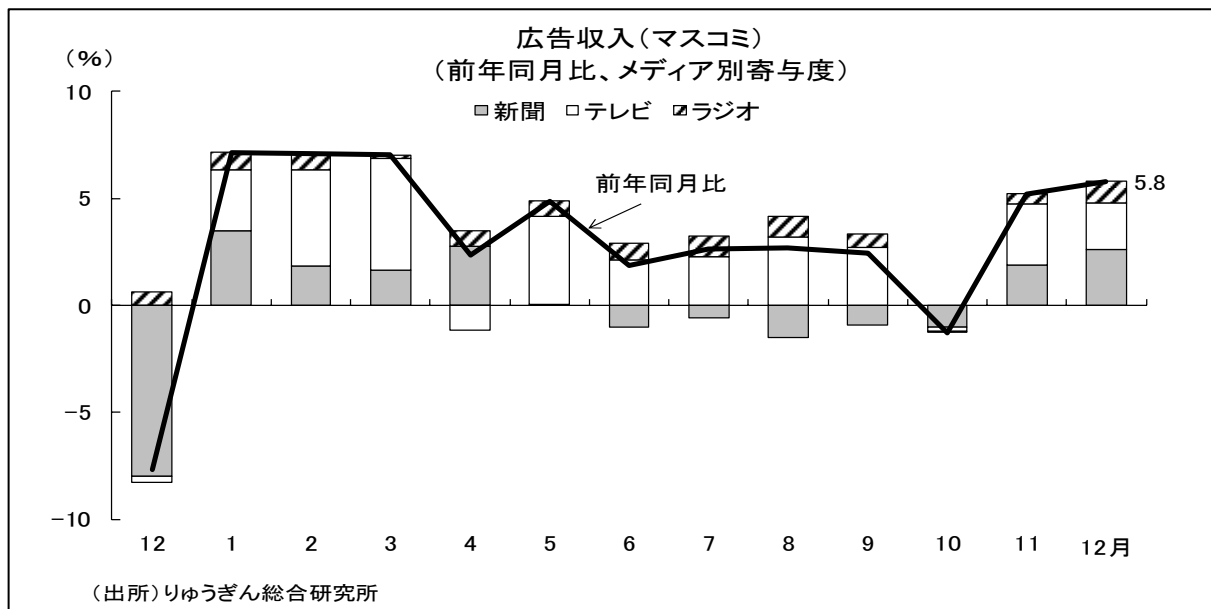
- 消費者物価指数（12月）は、前年同月比2.4%増と19カ月連続で前年を上回った。生鮮食品を除く総合は同2.4%増と上昇した。消費税増税の影響により前年を大幅に上回った。
- 品目別の動きをみると、食料、教養娯楽などが上昇した。

(3) 企業倒産：件数は同数、負債総額は減少



- ・ 倒産件数は、7件で前年同数となった。業種別では、サービス業3件（同2件増）、小売業2件（同2件増）、不動産業1件（同数）、情報通信業1件（同数）であった。
- ・ 負債総額は、3億7,500万円となり、同74.9%の減少だった。

(4) 広告収入（マスコミ）：2カ月連続で増加



- ・ 広告収入（マスコミ：12月）は、衆院選関連の広告増などから前年同月比5.8%増となり、2カ月連続で前年を上回った。

沖縄県内の主要経済指標.....	17
〃          金融統計.....	19



## 沖縄県内の主要経済指標(その1)

暦年	百貨店 売上高	スーパー 売上高 (既存店)	スーパー 売上高 (全店)	電気製品 卸売額	新車販売 台数	泡盛 出荷量	公共工事請負額		建築着工床面積	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	百万円	前年比	千平米	前年比
2012	1.4	▲1.3	1.3	▲13.4	30.0	▲0.7	237,692	1.7	1,768.4	3.9
2013	2.5	1.0	3.4	18.1	7.1	▲2.5	266,778	12.2	2,136.7	20.8
2014	6.9	2.5	3.3	▲6.2	7.8	-	294,689	10.5	2,097.5	▲1.8
2013 12	▲0.4	2.6	3.8	18.2	26.1	▲0.7	16,792	12.0	159.2	15.6
2014 1	0.9	3.7	4.9	40.4	35.4	▲5.2	20,056	▲3.4	143.2	▲18.2
2	2.8	0.9	2.4	35.6	14.1	▲0.4	21,681	16.6	188.3	4.2
3	14.7	14.4	15.9	10.2	20.5	12.9	21,096	▲21.6	224.0	34.7
4	▲6.8	▲4.7	▲3.3	▲8.7	▲4.6	▲7.8	22,973	41.3	339.5	179.3
5	3.5	▲0.1	0.6	▲15.3	2.1	▲15.1	19,683	83.2	134.8	▲9.4
6	5.7	▲0.3	0.0	▲14.2	8.1	-	19,751	▲2.8	168.3	2.1
7	5.0	4.7	5.5	▲9.6	▲8.2	6.1	46,674	18.5	135.1	▲30.0
8	10.8	1.4	1.8	▲16.1	▲3.6	▲13.7	23,163	2.4	168.3	▲7.1
9	8.8	3.4	3.7	▲9.7	11.1	16.0	31,485	35.8	136.5	▲48.4
10	1.7	2.4	2.9	▲20.8	▲2.3	-	27,642	▲11.8	126.4	▲35.4
11	15.2	2.9	3.3	▲26.9	5.9	-	17,512	▲11.9	137.9	▲25.9
12	21.0	1.7	2.7	▲20.1	21.5	-	22,968	36.8	195.2	22.6
2015 1	16.3	1.8	2.7	▲29.1	▲13.6	-	14,359	▲28.6	-	-
出所	りゅうぎん総合研究所調べ				自販協	酒造組	西日本建設業保証 沖縄支店		国土交通省	

注) 百貨店売上高は、2014年9月より調査先が一部変更となった。泡盛出荷量の2014年6月は未公表。

注) 新車販売台数の出所は沖縄県自動車販売協会、泡盛出荷量は沖縄県酒造組合。

暦年	新設住宅着工戸数		建設 受注額	セメント 出荷数量	生コン 出荷数量	鋼材 売上高	木材 売上高	入域観光客数		観光施設 入場者数
	戸	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	千人	前年比	前年比
2012	12,713	7.5	3.4	▲0.7	3.6	▲6.1	▲7.0	5,835.8	7.8	6.2
2013	16,618	30.7	11.3	7.3	13.1	15.2	10.3	6,413.7	9.9	9.2
2014	15,426	▲7.2	10.7	18.3	4.6	9.4	9.1	7,056.2	10.0	6.7
2013 12	1,437	49.5	▲21.3	7.3	6.8	20.2	4.4	515.5	11.2	8.9
2014 1	1,065	▲1.7	133.0	4.4	5.1	3.8	4.3	495.1	15.2	5.7
2	1,298	11.7	7.6	9.4	9.1	10.8	14.4	503.1	8.6	▲0.7
3	1,540	39.6	▲41.6	29.8	15.4	1.1	29.6	630.2	10.8	5.5
4	1,418	36.2	112.6	27.1	10.4	5.0	▲3.9	565.6	9.5	8.7
5	1,116	25.0	21.5	25.9	7.5	34.8	13.4	561.4	17.5	9.5
6	1,432	34.1	25.6	14.8	▲2.4	16.0	1.8	557.3	13.9	10.4
7	1,172	▲34.0	▲23.8	0.2	▲11.1	24.7	1.9	653.9	12.0	6.3
8	1,482	▲5.3	▲11.6	13.6	▲6.7	23.1	13.9	731.2	3.6	5.2
9	1,301	▲35.4	▲15.5	29.5	12.1	0.5	6.7	658.7	8.4	5.3
10	1,018	▲35.6	▲26.2	34.1	13.3	9.4	15.1	586.0	7.9	2.6
11	1,216	▲35.8	27.3	14.4	0.2	▲8.6	12.5	564.5	9.9	13.2
12	1,368	▲4.8	31.0	19.6	4.7	3.6	2.1	549.2	6.5	6.9
2015 1	-	-	▲57.8	16.9	5.9	▲4.9	P ▲7.0	530.1	7.1	6.8
出所	国土交通省		りゅうぎん総合研究所調べ				県文化観光スポーツ部 観光政策課		りゅうぎん 総合研究所	

注) 入域観光客数は、2011年以降の数値について混在率の変更により遡及修正した。Pは速報値。

注) 観光施設入場者数は、2011年1月より調査先が6施設から5施設となった。

## 沖縄県内の主要経済指標(その2)

暦年	ホテル稼働率 (実数)		ホテル売上高 (前年比)		ゴルフ場 入場者数	広告収入	入域観光客数 のうち外国客		鉱工業生産指数 (季調値)	
	市内	リゾート	市内	リゾート	前年比	前年比	千人	前年比	2010年=100	前年比
2012	69.4	71.1	3.4	4.1	▲1.2	4.3	376.7	34.5	96.3	▲0.5
2013	75.3	73.4	2.3	4.6	3.5	0.4	550.8	46.2	102.4	6.3
2014	79.0	77.8	5.1	5.0	0.7	4.0	893.5	62.2	-	-
2013 12	71.4	62.5	6.6	5.3	4.8	▲7.6	36.2	111.7	99.3	6.6
2014 1	71.8	68.7	1.7	7.9	9.2	7.2	48.1	208.3	97.9	1.3
2	91.7	85.1	0.8	1.3	3.4	7.1	44.3	80.8	92.6	▲10.5
3	85.2	83.4	5.0	3.8	4.9	7.0	48.7	98.0	117.6	6.3
4	78.1	79.2	3.6	2.5	6.5	2.3	73.9	48.1	104.5	▲0.1
5	68.0	68.4	5.0	12.5	2.0	4.8	97.1	54.4	105.2	▲5.3
6	72.8	76.9	5.2	11.0	▲6.2	1.9	95.5	52.8	103.7	▲1.1
7	81.3	88.9	14.4	10.4	▲5.3	2.7	92.3	41.6	100.4	1.6
8	84.7	87.4	6.2	▲0.7	▲5.1	2.7	84.2	39.4	102.8	▲4.4
9	85.8	89.0	1.7	2.5	▲5.5	2.5	99.9	63.2	102.9	8.9
10	75.6	76.5	2.7	3.4	▲1.6	▲1.3	93.8	62.3	100.4	8.4
11	80.3	69.1	10.7	7.2	4.5	5.2	56.4	68.4	107.6	1.3
12	74.4	62.8	3.7	4.5	0.7	5.8	64.7	78.7	-	-
2015 1	76.7	74.1	8.8	3.0	5.3	-	67.9	41.2	-	-
出所	りゅうぎん総合研究所調べ					県文化観光スポーツ部 観光政策課			県企画部統計課	

注) ホテルは、2014年10月より調査先が25ホテルから27ホテルとなった。

注) 2012年5月より外国客の入域観光客数を掲載した。

注) 鉱工業生産指数の暦年値、前年比は原指数の増減率。2013年11月より2010年=100に改定された。

暦年	企業倒 産件数	負債総額		消費者 物価指数	失業率 (季調値)	就業者数	有効求人 倍率 (季調値)	新 規 求人数 (県内)	通関 輸出	通関 輸入
	件	百万円	前年比	前年比	%	前年比	倍	前年比	百万円	百万円
2012	71	10,745	▲38.2	0.0	6.8	1.3	0.40	9.6	80,654	336,046
2013	79	38,418	257.5	0.3	5.8	2.4	0.53	17.0	83,423	309,989
2014	78	10,112	▲73.7	2.5	5.4	0.5	0.70	14.7	81,162	377,849
2013 12	3	3,910	137.3	1.4	4.5	1.9	0.63	24.1	6,909	31,523
2014 1	7	1,492	▲92.8	1.4	4.6	3.8	0.63	26.6	9,075	26,292
2	4	214	▲47.3	1.0	4.9	1.4	0.62	14.8	8,392	9,650
3	7	386	▲52.5	1.2	5.5	2.4	0.63	16.4	2,397	77,279
4	3	1,314	▲60.1	2.8	5.1	1.4	0.64	11.8	11,908	39,052
5	6	683	13.3	3.1	4.8	▲0.5	0.63	▲5.4	9,731	33,431
6	5	2,090	58.3	3.2	5.5	1.6	0.68	24.5	1,415	22,281
7	4	361	▲66.7	3.0	6.2	▲0.2	0.71	17.9	4,833	27,197
8	7	697	34.3	3.0	6.3	▲2.0	0.74	6.3	9,609	30,539
9	7	808	▲16.8	3.3	6.2	▲1.4	0.75	28.9	4,726	30,298
10	11	774	▲82.3	2.9	5.3	▲0.5	0.76	21.3	12,214	37,837
11	8	487	16.2	2.5	5.6	▲0.5	0.77	▲2.7	1,457	17,824
12	9	806	▲79.4	2.4	4.6	▲0.8	0.80	21.7	5,406	23,983
2015 1	7	375	▲74.9	-	-	-	-	-	10,624	20,686
出所	東京商工リサーチ沖縄支店		県企画部統計課			沖縄労働局		沖縄地区税関		

注) 消費者物価指数は、2011年7月より2010年=100に改定された。

注) 失業率と有効求人倍率は、2013年12月以前の数値について新季節指数へ遡って改訂した。

## 沖縄県内の金融統計

年度	銀行券 発行額	銀行券 還収額	銀行券 増減 (▲還収超)	貸出 金利 (地銀3行)	手形交換高(金額は億円)				不渡実数 (金額)	不渡 発生率
	億円	億円	億円	%	千枚	前年比	金額	前年比	百万円	%
2011FY	2,930	3,991	▲1,061	2.336	288	▲5.7	4,466	▲3.5	444	0.100
2012FY	2,993	4,016	▲1,024	2.223	274	▲4.9	4,323	▲3.2	424	0.098
2013FY	3,137	4,260	▲1,120	2.065	267	▲2.3	4,420	2.2	505	0.114
2013 12	628	164	464	2.065	23	13.6	356	26.4	23	0.065
2014 1	121	647	▲ 525	2.059	22	▲5.1	363	▲0.5	5	0.012
2	220	320	▲ 99	2.049	21	▲1.7	326	1.4	8	0.023
3	284	369	▲ 84	2.016	22	9.4	398	13.5	64	0.161
4	324	374	▲ 49	2.019	22	▲10.7	392	▲15.4	18	0.046
5	201	460	▲ 259	2.002	20	▲15.6	328	▲16.2	30	0.091
6	256	289	▲ 33	1.993	25	20.8	413	35.0	77	0.187
7	245	374	▲ 128	1.986	23	▲12.9	373	▲13.3	39	0.103
8	239	356	▲ 116	1.980	19	▲6.2	301	▲2.5	36	0.120
9	213	402	▲ 189	1.975	23	▲2.9	399	▲13.4	105	0.262
10	257	371	▲ 114	1.972	21	▲3.4	342	▲1.9	4	0.010
11	198	279	▲ 81	1.966	17	▲8.9	252	▲6.3	3	0.011
12	582	214	368	1.955	22	▲3.2	342	▲3.7	0	0.000
2015 1	-	-	-	-	18	▲17.4	288	▲20.6	13	0.045
出所	日本銀行那覇支店				那覇手形交換所					

注) 銀行券増減は、端数調整により一致しない場合がある。

注) 貸出金利は、暦年ベース。

注) 不渡発生率は、不渡実数(金額)÷手形交換高(金額)×100

年度	地銀3行預金量 (信託勘定含む未残)		地銀3行融資量 (信託勘定含む未残)		県内金融機関 の預金残高		沖縄振興開発 金融公庫融資量 (未残)		沖縄県信用保証協会 債務残高(未残)	
	億円	前年比	億円	前年比	億円	前年比	億円	前年比	億円	前年比
2011FY	40,508	6.3	27,969	1.4	38,978	6.5	9,464	▲5.5	1,880	▲10.2
2012FY	41,683	2.9	28,491	1.9	40,194	3.1	8,940	▲5.5	1,688	▲10.2
2013FY	42,266	1.4	29,713	4.3	41,516	3.3	8,176	▲8.5	1,554	▲7.9
2013 12	41,822	3.4	28,698	4.3	42,011	3.4	8,429	▲6.9	1,573	▲8.7
2014 1	41,243	2.9	28,761	4.6	41,764	3.4	8,388	▲6.6	1,562	▲8.4
2	41,299	2.6	28,970	4.8	41,388	3.3	8,338	▲6.5	1,553	▲8.5
3	42,266	1.4	29,713	4.3	41,581	3.1	8,176	▲8.5	1,554	▲7.9
4	42,941	2.3	28,995	4.5	42,663	2.8	8,101	▲8.5	1,501	▲8.7
5	43,225	3.8	29,176	5.0	42,714	3.5	8,065	▲8.3	1,458	▲9.1
6	43,117	1.2	29,341	5.7	43,369	3.2	7,983	▲8.2	1,443	▲9.0
7	43,176	3.1	29,506	5.8	43,471	2.5	7,935	▲8.2	1,431	▲9.6
8	43,303	2.7	29,605	5.8	43,250	2.8	7,927	▲7.6	1,428	▲9.3
9	43,664	3.1	30,151	5.8	43,665	3.1	8,058	▲4.4	1,435	▲8.9
10	42,892	3.7	29,953	6.2	43,210	3.3	8,028	▲4.3	1,420	▲10.4
11	43,678	4.3	30,051	6.2	43,482	3.6	7,989	▲4.3	1,404	▲10.8
12	43,644	4.4	30,395	5.9	43,627	3.8	7,939	▲5.8	1,412	▲10.3
2015 1	43,306	5.0	30,412	5.7	-	-	-	-	1,404	▲10.1
出所	沖縄県銀行協会		沖縄県銀行協会		日本銀行那覇支店		沖縄振興開発金融 公庫		沖縄県信用保証協会	

注) 県内金融機関の預金残高は、14年6月分より県内に所在する国内銀行および信用金庫の集計値へ変更になったため遡及改訂した。

なお、県内金融機関の預金残高は実質預金(総預金から切手・小切手を差し引いたもの)の集計値で、年度の残高は年度中の平残。